

第38号

社団法人
岐阜県道路交通安全施設業協会

TEL(058)273-8566
FAX(058)275-3620
E-mail:grs@nifty.ne.jp



**子どもたちの命を守る
交通安全教育**



岐阜県教育委員会
教育長
松川 禮子

社団法人岐阜県道路交通安全施設業協会の皆様には、平素から、学校周辺・通学路の安全対策等について深い御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私たち、教育に携わる者にとって、児童生徒が安全に安心して登校し、生き生きと1日を過ごすことが何よりの喜びです。

そんな中、今年度4月以降、集団登校中の小学生の列に車が突っ込む事故が全国で相次ぎ、死傷者が出たことは誠に残念なことです。

安全であるはずの通学路で痛ましい事故が二度と起きないよう、文部科学省、国土交通省、警察庁が連携し「学校の通学路の安全確保について(平成24年5月1日付け)」を関係機関等に発出し、さらに「通学路における緊急合同点検等実施要領」を作成しました。

これは、全国の公立小学校及び公立特別支援学校小学部の通学路を対象に、学校から報告された通学路の危険箇所について、学校、保護者、道路管理者及び地元警察署による合同点検を実施し、対策が必要な箇所について、地元住民との調整を図り対策案を作成していくものです。

対策案の例としては、歩車道分離のためのガードレールの設置、信号機や標識の新設、交通規制の見直し、学校安全ボランティアの活動場所の見直し等、様々考えられますが、各地域の実情に応じて関係機関がよく連携を図っていくことが必要です。

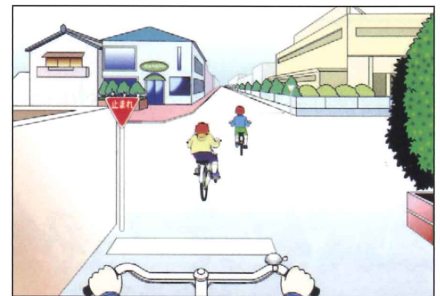
一方、学校においては日常的に交通安全について指導を重ねているところですが、残念なことに児童生徒の交通事故の報告が絶えることはありません。報告された事故の特徴を分析してみると、次のことが多く見られました。

- 自転車乗用中の事故のうち、半数以上が、交差点での飛び出しに起因する事故
 - 小学生は、下校後または休日に自転車乗用中の事故が多い。
 - 中学生・高校生は、自転車での登下校中の事故が多い。
- そこで、県教育委員会では、自らの命を自ら守るため、交差点での危険を予測する能力を高めていくことが必要であると考え、「ドライバーとアイコンタクトができる岐阜の子の育成」をキャッチフレーズとして各学校に示し、毎日、教員や保護者が子どもたちに声をかけて意識付けをするようはたらきかけています。

具体的には、

- 「もしかしたら車がかかるかもしれない」という意識を常にもち、交差点では絶対に飛び出さないこと。
- 交差点で右左折しようとする車、停止しようとしている車のドライバーと目を合わせ、自分たちを認識してくれているかどうか確かめること。 などで。

また、各学校の教頭を対象とした「学校安全教室推進講習会」において、実際の道路状況をイラストにしたものを使用して、「危険予測トレーニング」など、実効的な安全指導を各学校で行うよう指導しております。



社団法人岐阜県道路交通安全施設業協会の皆様におかれましては、今後も益々御活躍されますことと、貴協会の益々の御発展を祈念するとともに、子どもたちを交通事故から守るため御協力を賜りますことをお願い申し上げ、寄稿の結びとさせていただきます。